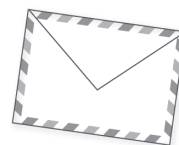




同窓会だより



第14期第1組 OA推進コース

あれから18年

平成29年の同窓会は、岐阜県御嵩町が幹事となり、11月19日～21日に福井県と金沢市で開催しました。参加者は8名で、到着順に福井駅前の電車通り近くにある公園の柴田神社、北の庄城跡を散策し、戦国武将柴田勝家、お市の方、三姉妹（茶々、初、江）の像をめぐるしました。その後、幹事がレンタカーで待つ永平寺駅にえちぜん鉄道で向かい合流し、全員が集まりました。参加者は北海道北広島市、岩手県登米市、愛知県豊川市、鳥取県倉吉市、広島県江田島市、福岡県中間市、沖縄県那覇市で、同窓会がスタートしました。今回の特徴は5名が退職者、現役は3名のみで、18年間開催してきた中で、初めて退職者数が上回りました。これは、長年開催し培われた人間関係と、毎年皆に会って楽しい日々を過ごしたい気持ちの表れだと思っています。

その後、道元が開山した永平寺を参拝し、朝倉氏の遺跡一乗谷を回り1日目の観光が終了しました。夕食は地元の居酒屋で海の幸を堪能し、ホテルに帰り全員で部屋飲みしました。

2日目は日本の奇勝、北陸屈指の景勝地である東尋坊をゆっくり散策し、カニ味噌で乾杯。盛り上がったところで兼六園へ出発、途中で海鮮市場に立ち寄り、北陸の海の幸たっぷりの昼食をとりました。兼六園では生憎の雨でしたが、日本三大庭園の1つであり、加賀百万石の文化を映す歴史的な



化遺産を見ることができました。この日の宿は加賀温泉観光ホテルで、最後の宴会を行いました。この場で次の開催地を検討、鹿児島開催が決定し、楽しみな1年後となりました。

OA推進コースの研修を受け18年が経過しましたが、毎年同窓会（忘年会）を2泊3日で開催し、25名の研修生のうち8名前後が参加します。勿論、仕事や家庭の事情で不参加の場合もありますが、未だ10市町の方と強い絆ができています。

市町村アカデミーでの研修が、このような出会いと財産を作ってくれたことに感謝をしながら、再任用3年目を迎える小生（筆者）です。

福岡県中間市 高橋 洋

第19期第2組 地方自治制度(研修講師養成)

～出雲大社でご縁を紡ぐ～

「地方自治制度（研修講師養成）」第19期第2組の第12回同窓会を、平成29年10月28日～29日に広島県庄原市、島根県出雲市等の広範囲で開催しました。参加者は、同窓生とそのご家族、担当教授の8名でした。

初日は、まずは縁結びで名高い「出雲大社」に再会を祝して参拝しました。雨の中、しっとりとした風情のある出雲大社の雰囲気にはまりました。隣接する「島根県立古代出雲歴史博物館」では、出雲大社の古代神殿のレプリカや銅鐸等に古



へのロマンを馳せました。

その後、「島根ワイナリー」を経由し、広島県庄原市が設置している「道の駅たかの」に向かいました。この道の駅は、平成25年に開通した「松江自動車道」の高野インターに併設され、西日本の道の駅では初となる「雪室」を設置しているのが最大の特徴です。庄原市高野地域は豪雪地帯で、真夏でも「雪室」を天然の冷蔵庫として地酒や特産のりんごジュースの熟成の他、高原野菜の貯蔵庫としても活用しています。駅長から直接説明を受けながら、特産の高野りんごのジェラートに舌鼓を打ちました。

夕暮れ時に、松本清張作「砂の器」の舞台となった奥出雲町の「亀嵩温泉玉峰山荘」に移動し、夜は、「時忘れの近況報告タイム」で盛り上がり、12年前のアカデミー研修がつい昨日の事のように懐かしく語り合いました。

翌日は、世界一の日本庭園として有名な安来市の「足立美術館」に入館し、究極の日本庭園と「横山大観」の作品等を鑑賞しました。その後、「国宝松江城」への登城やお堀を巡る「堀川遊覧」を楽しみながらそれぞれの帰路についてアカデミー同窓会を終えました。

今回は、アカデミー同窓会に相応しく、出雲大社でご縁を紡ぐツアーとなりました。雨の2日間でしたが、散会する頃には、宍道湖に美しい陽射しが戻ってきて、天からの次回へのエールが送られているようでした。回を重ねる毎に、同窓の皆さんとの縁を深めていければと思っています。

広島県庄原市 岡村 幸雄



同窓会だより



第20期第1組 知恵と工夫の地域再生

増永会天草同窓会（第9回）に参加して

平成18年度、「知恵と工夫の地域再生」を受講した32名です。担任の「増永恭子」先生の名前をお借りし「増永会」と名付け早10年を迎えました。

たった4日間の研修でしたが、その中身はとても濃密でした。平成19年東京で発会式を行い、富山県氷見市、栃木県佐野市と訪問し、その後、第1回（東京）、第2回（島根県出雲市）、第3回（神奈川県平塚市）、第4回（北海道小樽市）、第5回（福岡県大牟田市）、第6回（福井県福井市）、第7回（山形県米沢市）、第8回（東京築地）と会を重ね、今回（第9回）は熊本県天草市での開催となりました。

同窓会ではそれぞれホスト役の幹事に、開催地の歴史・文化を真心を込めて案内していただき、単なる観光旅行とは大きく異なり、参加者自身のまちづくりに大いに参考になっています。

参加者は増永先生を含め少数精鋭の5名でしたが、久々に仲間に出会える楽しみに、夜遅くまで盛り上がりました。自身の健康管理、お国自慢、趣味、子供、孫、仕事など語り尽くせません。翌日は風光明媚な天草五橋や時津天主堂などを観光し、



美味しいお魚とお酒をしっかりといただきました。

来年は、増永先生リベンジの「小樽」に決定し、再会を約束し散会しました。健康管理をしっかり行い、北海道での同窓会にぜひ参加したいと思っています。いつまでも続くといひですな！

同窓会幹事長 栃木県佐野市 片柳 栄

第21期第1組 財政運営

～祝・卒業10年記念同窓会in熊本～

平成29年9月30日（土）・10月1日（日）に、アカデミー卒業10年という節目の記念同窓会を、初の九州開催となる熊本市で行いました。これまでほぼ毎年開催してきたこの同窓会も9回目を迎え、この度の記念同窓会への参加者は、増永教授（東京都）を始めとする4名の同窓生（吹田市、豊田市、宮崎市、天草市）となりました。ご存知のとおり熊本は昨年4月の大震災から今も復興に向けて取り組みが続いており、今回はその復興支援も目的に集まったのですが、実は元々同窓生には熊本市の研修生はいなかったため、天草市と隣県の宮崎市の2人が幹事を務めて開催に至った次第です。

初日は幹事2人の自家用車に分乗して、まず地震被害の大きかった益城町を訪問し、複数の店が立ち並ぶ復興カフェで



熊本赤牛カレーや太平燕（タイピーエン）などのランチを頂いた後、今は使用不能となった益城町役場の庁舎や徐々に復旧している町並みを眺めながら、阿蘇方面へ向かいました。阿蘇への道中では最近ようやく復旧した阿蘇長陽大橋を渡り、少し遠回りをしながら阿蘇山頂を目指して進んだものの、山頂付近は火山活動による影響で立ち入り規制が敷かれ登頂はできませんでしたが、雲ひとつない秋晴れの空の下で阿蘇の山並みをバックに記念写真を撮ることができました。

夜の部はというと、熊本市の繁華街の懇親会会場に場所を移して、美味しい熊本料理とお酒を頂きながら、この10年間の懐かしい思い出話や近況報告に花が咲きました。そして余談ではありますが、2次会の場所として選んだのが、繁華街からタクシーで15分ほどの熊本大学の裏通りにある学生居酒屋で、実はここは今回の幹事（宮崎市）が学生時代にアルバイトをしていたお店です。とはいえなぜここを選んだかですが、実は幹事が前日に鹿児島島の錦江湾で釣ってきたドラゴン太刀魚（160cm・3kg）やハガツオなどの鮮魚を持ち込んで、祝10年の記念同窓会のおもてなし料理を振舞うという使命達成のために昔馴染みのお店をお借りしたもので、参加者全員大満足の宴となり楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

2日目は熊本のシンボルである熊本城の見学を行い、テレビなどでよく目にしていた石垣や天守閣の復旧状況を確認したりするなど、改めて地震の怖さを実感したところでした。幹事としては、今回の同窓会は10年の節目の会を祝うということ、そしてもう1つの目的の熊本の復興支援に少しでも力になったのではないかと感じており、また次の同窓会で元気に再会しようと誓い合ってそれぞれ帰路に着きました。

熊本県天草市 江良 圭治郎
宮崎県宮崎市 原 俊一郎